



**写真等無断転載禁止**

## 「市民版・生物多様性ちば市戦略 2023」を千葉市へ提出

みんなで市民版・生物多様性ちば市戦略をつくる会編集担当・放送大学客員教授 中村 俊彦

ちば環境情報センターニュースレター306号(2023.2.8)でお知らせした「市民版・生物多様性ちば市戦略 2023：水の環はぐくむ にぎわいつながる生命(いのち)の輝きを子どもたちの未来へ」([https://www.ceic.info/ChibaBiodiv\\_Apr2023.pdf](https://www.ceic.info/ChibaBiodiv_Apr2023.pdf))

を完成させ、4月24日に、みんなで市民版・生物多様性ちば市戦略をつくる会(市民生物多様性の会)代表・元千葉県知事の堂本暁子さんから千葉市長 神谷俊一さんへ手渡されました。



千葉市長室にて、全員で「アメリカザリガニ〜」2023年4月24日(千葉市役所にて)

今年1月31日の最初の発起人会からスタートし、約3ヶ月の期間でしたが、多くの方々からのご意見に加え、作成へのご支援・ご協力のおかげで、なんとかまとめ上げることができました。戦略づくりの編集担当として皆さんに感謝申し上げます。

この市民版戦略は以下の項目立てで全64ページとなりました。

はじめに

一千葉市の市民版生物多様性戦略づくりの趣旨

第1章 市民版の生物多様性ちば市戦略の理念

第2章 生物多様性とその重要性

第3章 市民版の生物多様性戦略づくりの背景

第4章 千葉市の自然と人とのかかわりの変遷

第5章 現状の問題と今後への課題

第6章 子どもたちの未来への対策と取組

第7章 市行政、市民、事業者、大学等研究者の役割

コラム(13項目)、まとめ、参照・引用資料・文献

### <堂本代表から神谷千葉市長への説明概要>

私たちは、千葉市の生物多様性の保全再生を目指し活動してきた市民です。新たな「千葉市基本計画」の理念「みんなが輝く 都市と自然が織りなす千葉市」に共感し、また期待しています。是非この実現に向け、協力させていただきたいと「市民版・生物多様性ちば市戦略 2023」を作成しました。

千葉市は、大都市ではありますが、その周辺に動植物豊富な谷津田や豊かな水源の林が残されており、南関東の生物多様性のホットスポットです。しかし、今、自然・生物多様性が損われかねないさまざまな問題が生じています。

「都市と自然が織りなす千葉市」への第一歩として、私たちは、市民のサイドから、千葉市の自然・生物多様性の問題・課題を整理しました。今回、その課題を、大きく7項目に整理しましたが、最も大きな課題は、千葉市においては、市内の自然・生物多様性に関する情報の集積がなく、専門職員もいま

せん。また、自然や生物多様性にかかわる対策が各  
部局に散在しているために自然を守る力がきわめ  
て弱く、生物多様性の危機に対応できる状態ではな  
いとおもいます。

したがって、まず、各部局に分散している自然や  
生物多様性にかかわる市の対策・取組を一元化する  
組織「自然局」を設置することを提案致します。こ  
の横串の組織によって、大きな課題となっている谷  
津田・水源林の一体的な保全再生、河川や海岸の自  
然環境の復元、そして子どもたちの自然体験の場の  
充実等の取組がより効果的に実施できるとおもい  
ます。

また、その前提として、自然・生物多様性の情報  
を集積保管し、学術・技術の面で市民の活動を支援  
する「千葉市自然誌・生物多様性センター」の設置  
も、是非、お願いしたいとおもいます。これは、市  
の動物園や植物園、博物館などの自然・生物多様性  
にかかわる専門機関の一面に設置することも可能  
とおもいます。是非、ご検討いただきたいとおもい  
ます。

さらに、関係者の交流拠点そして意見交換の場と  
して「生物多様性保全再生協議会」を設置していただ  
き、市の理念とする「みんなでつくる」の体制整

備の一つにさせていただくことをお願いしたいとお  
もいます。市の関係者も行政だけではなく、動物園、  
植物園、博物館の専門家も入っていただき、みんな  
で議論し、知恵を出し合うことが重要とおもいます。

神谷市長さんからは、『千葉市の自然・生物多様  
性の対策には、いろいろ課題があることがわかって  
きました。まずは、市内の生物多様性の現状を知る、  
モニタリングシステムを充実させることからはじ  
めなければならないとおもっています。これには市  
民や専門家の方々のご協力が必要不可欠とおもい  
ます。千葉市の自然・生物多様性をしっかり守り、  
都市と自然の織りなす千葉市を実現するためにも、  
「市民版・生物多様性ちば市戦略」を参考させてい  
ただき頑張っていきます。』とのコメントをいただ  
きました。

この市民生物多様性の会は、堂本暁子代表のもと、  
この戦略をさらに充実・発展させていくため多くの  
の方々にご理解・ご参加をお願いしつつ、その対策・  
取組の実現に向け今後も活動を続けていくことにな  
りました。皆さまのさらなるご支援・ご協力、よ  
ろしくお願い致します。

## 下大和田谷津田（猿橋地区）の開発計画について③ ～環境アセスメント～

NPO法人ちば環境情報センター 理事 小田 信治

### 【はじめに】

前回のニュースレター（第308号）と1月号（第305  
号）では、小西代表から谷津田の保全地区の概要と下  
大和田において開発計画が進められていることの説明  
がありました。ここでは開発計画の問題点と環境アセ  
スメントについて解説します。

### 【開発計画の概要】

- ・名 称：千葉市緑区下大和田町開発計画
- ・所在地：千葉市緑区下大和田町 1139 番地他
- ・事業者：美樹観光株式会社
- ・事業内容：宅地開発事業
- ・開発面積：約 74.5ha
- ・開発工程：R4 年度～R6 年度（環境アセス）  
R7 年度～R8 年度（造成工事）  
R9 年度～R10 年度（建築工事）

中野インターに近い立地を活かして物流倉庫や製造  
業を誘致する計画のようです。

### 【開発計画の問題点】

#### ①谷津田が消失

土地利用計画の破線マルの箇所が私たちの活動エ  
リアで、谷津田になります（図-1）。千葉市内に残され

た貴重な谷津田は土地造成で埋め立てる計画となっ  
ています。

下大和田の谷津田は、「千葉市谷津田の自然の保全  
に関する要綱」で保全協定が結ばれ、「環境省生物多様  
性保全上重要な里地里山」と「関東・水と緑のネット  
ワーク拠点百選」に指定されています。

#### ②希少な動植物がいなくなる

谷津田が消失し、台地の樹林地や畑が宅地に変わる  
ことにより、ここに生息・生育しているメダカやアカ  
ガエル、ヒクイナ、カヤネズミ、サンショウモ、タコ  
ノアシなど多くの生き物たちはいなくなります。里山  
の生態系が大きく変わってしまいます。

#### ③水問題

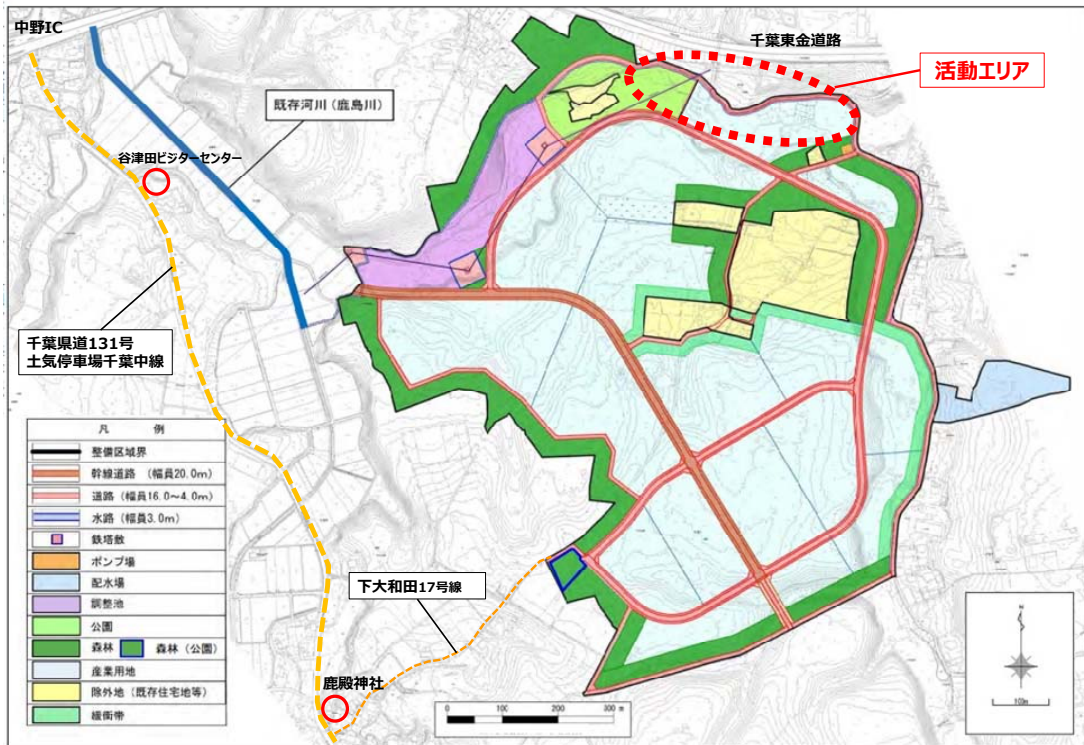
開発計画地は鹿島川の最上流部に位置し、下大和田  
谷津田の湧き水は印旛沼に注ぐ千葉県重要な水源と  
なっています。開発計画では公共用下水道により汚水  
を処理する計画となっていますが、下水管を埋設する  
幹線道路が県道 131 号と繋がっていません。

#### ④交通計画問題

開発計画地の進入道路である下大和田 17 号線は集  
落の生活道路で、普通車でもすれ違いが難しく、大型  
トラックの通行ができるような道路ではありません。  
騒音、振動、粉じん、交通事故等の影響が懸念されま

す。また、開発計画地の中央部の幹線道路（幅員 20m）は県道 131 号と繋がっておらず、中野インターに近い

立地を活かした物流倉庫や製造業の誘致は困難と言わざるを得ません。



### 【環境アセスメントについて】

#### 環境アセスメントとは

開発事業を行う事業者が、事業実施による環境への影響を調査、予測、評価を行い、その結果を公表して、住民や市民、行政などから意見を聞き、環境保全の観点からより良い事業計画を作成するための制度です。特徴は個別法（都市計画法、森林法など）による許認可と違い、規制ではなく、事業者が住民等の意見を取り入れて環境保全を行うための手続きです。また、環境アセスメントには罰則や事業を中止させる機能はなく、手続きを通じてコミュニケーションを図り、開発事業が社会的に受容されることを重視しています。この点は事業者、住民等から誤解されていることが多く、事業者によるアセス逃れ（規模を少し小さくしてアセス対象にしない）や住民等のアセスは事業を止めてくれる（期待）、逆に、アセスになったらおしまい（失望）をまねいています。

#### 千葉市環境影響評価条例

環境アセスメント制度では、国等が行う道路やダムなどの公共事業による環境アセスメントを定めた環境影響評価法と地方公共団体（都道府県、政令市）が開発事業等に対する環境アセスメントを定めた環境影響評価条例があります。千葉市では環境影響評価条例を平成 11 年 6 月 12 日から施行し、条例の対象事業は現在まで 4 件です。本開発計画はその 4 件目にあたり、これだけの大規模な面的開発事業は千葉市としては初めての案件です。

千葉市環境影響評価条例（以下、「市アセス条例」と言う）の対象事業の種類や規模要件については、千葉

市ホームページに掲載されている市アセス条例のあらましをご覧ください。

[https://www.city.chiba.jp/kankyo/kankyohozen/hoz/en/assess\\_index.html](https://www.city.chiba.jp/kankyo/kankyohozen/hoz/en/assess_index.html)

#### 市アセス条例の手続き

市アセス条例では、民間事業の場合は「事業計画概要書」から始まり、「環境影響評価方法書」、「環境影響評価準備書」、「環境影響評価書」、「事後調査報告書」の各段階で事業者はアセス図書を作成します（図-2 参照）。各手続きは市のホームページ等で公告され、市の施設や事業者のホームページ等でアセス図書が縦覧されます。方法書と準備書については、事業者による説明会があり、意見書を市に提出することができます。また、大学等の有識者による審査会により、アセス図書の内容等の審査が実施されます。

#### 開発計画の環境アセスメント

開発計画の環境アセスメント手続きが開始されています。「事業計画概要書」が 3 月 27 日から 4 月 25 日まで公示・縦覧され、4 月 26 日から 5 月 25 日まで「環境影響評価方法書」が公示・縦覧されています。以下の QR コードで見ることができます。

#### 市アセス条例（公告）

<https://www.city.chiba.jp/kankyo/kankyohozen/hozen/assess-example-shimoowada.html>



#### 美樹観光（方法書縦覧）

<https://www.mikikanko.com/detail13.html>





## 説明会

事業者(美樹観光)による住民説明が以下のとおり、開催されます。

① 1回目：令和5年5月27日(土曜日)

9時30分～11時30分まで

場 所：千葉市誉田公民館1階会議室(緑区誉田町1丁目789-49)

② 2回目：令和5年5月28日(日曜日)

9時30分～11時30分まで

場 所：千葉市誉田公民館1階会議室(緑区誉田町1丁目789-49)

住民説明会では、本開発計画の問題点について、どのように環境保全対策を行うのか、しっかりと聞き、質問したり、意見を述べることができます。

## 意見書

意見書を提出することができます。意見書は個人情報を書いたものを市から事業者に送付されますので、安心して出して下さい。

意見書の書き方は、意見書用紙に書くか、「千葉市緑区下大和田町開発計画 環境影響評価方法書」と明記して、意見を書き、住所・氏名を書いて、以下に提出してください。

- ・期 限：令和5年6月9日(金曜日)まで(郵送の場合は必着)。
- ・持 参：千葉市役所新庁舎高層棟7階 環境局環境保全部環境保全課 窓口
- ・郵 送：〒260-8722 千葉市中央区千葉港1-1 千葉市役所環境保全課あて

・ファックス：環境保全課 043-245-5557

・メール：kankyohozen.ENP@city.chiba.lg.jp

意見書用紙  
(ダウンロード)



<https://view.officeapps.live.com/op/view.aspx?src=https%3A%2F%2Fwww.city.chiba.jp%2Fkankyo%2Fkankyohozen%2Fhozen%2Fdocuments%2Fikensyo.docx&wdOrigin=BROWSELINK>

## 【おわりに】

現在は、方法書の手続きですが、次は方法書の内容に基づいた調査、予測・評価、保全対策を記した準備書の手続きになります。今後、千葉市環境影響評価条例のホームページに関心を寄せていただきたくお願いします。また、ちば環境情報センターのホームページには開発計画の問題点を詳しく掲載してありますのでご覧下さい。今後、環境アセスメントの情報を掲載して参ります。

ちば環境情報センター

<http://www.ceic.info/>



環境アセスメントは、事業者が住民や市民から意見を聞き、環境保全対策を検討することで、環境に配慮されたより良い事業計画にするための制度です。環境アセスメント制度を理解していただき、下大和田の谷津田を守るために活用していきましょう。

## アースデイ東京 2023 に出展しました

2023年4月15日、前日の暖かさとは打ってかわって冷たい雨が降りしきる中、代々木公園で開かれたアースデイに、ちば環境情報センターが出展し、スタッフとして参加しました。



今年のアースデイは4月15日、16日の2日間、代々木公園で開催され、環境活動や国際平和のための活動をしている200以上の団体が参加しました。

船橋市長 正子

白神山地を紹介するブースや、鹿の肉を使ったハンバーガーを売るお店、はちみつを売るお店、藍染めの衣類を売るお店など、たくさんのお店がありました。さらにお昼を食べるためのお皿を貸し出し、それを洗う場所もあり、イベントにつきもののゴミを少なくする工夫もされていて感心しました。ほかにもコンサートや講演会なども開かれていました。

ちば環境情報センターは、イオン環境財団の方たちと同じテントを使わせてもらい、森の恵みを使ったクラフト工作を行いました。

どんぐりや竹、小枝、稲などを使って可愛い「森の妖精」を作りました。雨のため来場者は少なかったのですが、このテントは好評で、親子連れが途切れることなく訪れ、熱心にトトロに似た森の妖精作りに挑戦しました。小さなどんぐりが可愛いインテリアに変身していくのを見るのはとても楽しかったです。雨でしたが、新緑がきれいで、森のありがたみ、自然のありがたみを実感する一日でした。

# お米にまつわるミャンマーの話 第8回

## ～第2の都市マンダレーの隠れ名店のミーシェの味～ 前編

千葉県若葉区 岩沢 久美子

ミャンマーに住んでいた時は仕事でミャンマー各地を訪問しました。地方への出張は、ヤンゴンの喧騒や首都ネピドーの人工的な閑散とはまた違うその土地土地の気候や文化を肌で感じる事ができ、とても楽しいものでした。地方出張の楽しみの一つが、その土地の郷土料理を食べることです。今日は、その中でも強烈な思い出の一つとなっているマンダレーで食べたミーシェのお話をしたいと思います。

マンダレーは、ヤンゴンから700キロほど北に位置するミャンマー第2の都市です。イギリスに併合される前の最後の王朝（コウンバウン王朝）の首都でもあり、今も残された王宮の壁がこの街のシンボルになっています（残念ながら建物は残っていない）。国土のちょうど中央に位置する立地から、インドや中国との交易の十字路であり、国内輸送の拠



現存する王宮の壁。建物は第二次大戦中の空爆で消失してしまっただが、今も町のシンボルになっている。後方に見えるのが、マンダレー一丘。丘全体が寺院でありマンダレー最大の聖地。

点地として今も賑わっています。

ところであまり知られてはいませんが、『動物牧場』や『1984年』等のディストピア小説で有名なイギリスの作家ジョージ・オーウェルが、当時イギリス領インドの属州だったビルマに大英帝国の官吏

として赴任していたのが、ここマンダレーでした。帝国主義を批判していたオーウェルは、イギリスへ帰国後、ビルマ時代の経験を基に最初の長編小説『ビルマの日々』を書いています。『ビルマの日々』は、当時のイギリス人の生活や現地人を蔑視する風潮を、ビルマ語を話し現地人と親しく交流するイギリス人青年フローリーの目線から描かれています。私はたまたまヤンゴンの街角の本屋さんでこの本を見つけて読みました。時代や目的は異なるものの、「外国人」としてミャンマーという異国に来て仕事をしている身として、色々考えさせられるものがありました。

話がだいぶ外れましたが、私がマンダレーを訪れたのは、雨期が始まる直前の最も暑い時期でした。内陸に位置するマンダレーは、ヤンゴンよりも乾燥しているものの、暑季には気温はとて高く、日中はまさにうだるような暑さになります。それでも、初めてマンダレー訪問した私は、ヤンゴン市内では目にしない道を塞ぐほどの大量なバイク（ヤンゴン市内ではバイクは禁止されている）や町の西方を流れるエヤワディー川沿いに連なる色とりどりのロンジー（ミャンマーの民族衣装）を売る出店の列、町を見守るようにそびえるマンダレー丘の景色などに心を躍らせていました。午前中に大事な用事を終えて、さてお昼ご飯を食べようとなりました。いつものように同行してくれたミャンマー人の同僚にマンダレーで有名な料理を尋ねたところ、「ミーシェ」という麺料理が有名だと教えてくれました。

実はこのミーシェ、日本では「ミーシェン（米線）」として知られている中国雲南省の米粉麺のことで、最近では日本でもブームになっているのだとか。想像するにマンダレーにも中国との交易の中で自然と伝わってきたのではないかと思います。本場中国の米線を食べたことがなく、どんな料理なのか興味津々でした。

## 新浜の話63 ～竹内ヶ原～

千葉県野鳥の会 市川市 蓮尾 純子

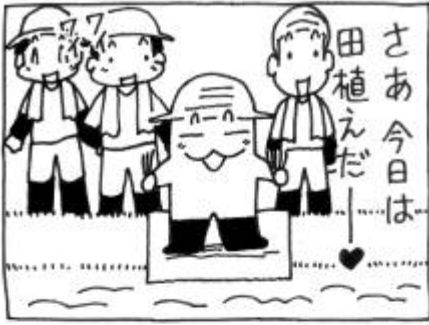
旧淡水池の隣にあたる竹内ヶ原のスタートを切られたのは、ボランティアの竹内暉男さんでした。

1980年代なかばから1990年代なかばまで、保護区の本土部の大半は丈の高い草原になっていました。水があるところではアシ原、それ以外のほとんどはセイタカアワダチソウが中心。セイタカアワダチソウは日本に入ってきてからの歴史が浅く、この植物を食べる

昆虫もまだ少ないようです。秋に咲く黄色の花は美しく、蜜源にも利用されていますが、虫が少ないせいか、セイタカアワダチソウの草原を利用する鳥はあまりいません。前にこのシリーズにも書きましたが、「トヨタ池」の造成前、予定地でロープをひいて、ぜんぶの鳥を追い出しながらカウントした時、飛び立ったのはわずかにキジとカルガモが1羽ずつでした。

# スロ-マン<sup>28</sup>

作: つやま あきひ



つやまあきひウェブサイト  
21世紀絵コジ〜 <http://www.21eco.net>

たしか1990年代になってから、大きくて真っ赤な「セイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシ」というのがたくさんついているのを見かけるようになりました。帰化して数十年を経過し、ようやく生態系の一部に組み入れられたのでしょうか。

草丈の高い草原では、裸の地面を好むコアジサシやシロチドリはもちろん、少し草むらがある環境が好きなヒバリやコチドリなどもいなくなります。草丈の低い草原、荒地、畑地などを好む鳥を復活させたいという話題が盛んになっていました。こうした中で、一部でもよいから草をせっせと刈って、ヒバリが戻って来られるような丈の低い草原にしよう、という目標をご自分で実践してくださったのが竹内さんです。キク科植物のセイタカアワダチソウは中心に高い茎がのび、先端に花をつけます。このため繰り返し刈られると勢力が弱まり、水がいつもたまる場所では姿を消します。

雨量が多く、気候も温暖な日本では、草を刈っても、木を切り倒しても、その場所が裸の地面のままということはまずありません。造成されたばかりの裸地も、早ければほんの1、2か月のうちに土中に含まれたり風で運ばれた種子が発芽して、2年も経てば草原になるのがふつうです。陸地に残土や山砂などを運んで造成された場所では、日本在来の植物よりは、生長が早く大型の帰化植物がはばを利かせています。一方、海岸の埋立地では、塩分に強いシロザの仲間やヨシが生えますが、砂の飛散防止のために牧草が撒かれて、イネ科の外来種が優占していることもあります。

長い間放置された造成地では、水がたまって湿地ができたり、風で種子が運ばれた松や柳などの樹木が育ち、鳥が木に止まって糞をするため、糞中の実のなる木々（サクラ類、トベラ、シロダモなど）の種子がまわりで大きくなります。ヨシは草丈が2〜3mですが、この高さまで伸びると、がぜん樹木が勢いづき、放置すれば、20年か30年も経つと林、やがて森林の環境が育ちます。

行徳の保護区は水鳥のために設定された場所。中でもシギやチドリといった攪乱が続く環境を好む水鳥の復活が悲願。潮の干満でできる干潟や人の手で作られた水田や畑などの耕作地は絶えず攪乱され、湿地の鳥の餌場になります。遷移に任せて森林環境が育つのは本意ではなく、「リセット」という物騒な考え方を前に出したことも。

竹内ヶ原は植生コントロールの最初の試みでした。うれしいことには、竹内さんの草刈り後、ヒバリが戻ってくれたこともあります。一時的ではありましたが。後の保護区の再整備計画にあたって、竹内ヶ原は湿地の一角に組み込まれ、現在に至っています。工事が始まる直前、竹内ヶ原に育っていたムラサキサギゴケの群落を助けたくて、トヨタ池の土手に移植したものでした。

【発送お手伝いのお願い】ニュースレター2023年 6月号(第310号)の発送を 6月 7日(水) 10時から千葉市民活動支援センター会議室(千葉市中央区中央2-5-1 千葉中央ツインビル2号館9階)にて おこなう予定です。ただし新型コロナ感染の拡大状況によっては中止する場合がありますので、お手伝いいただける方は事務局(小西 090-7941-7655)までご連絡ください。

あなたも入会しませんか ..... キリトリセン .....

住所〒 \_\_\_\_\_

ふりがな 氏名 \_\_\_\_\_ Tel \_\_\_\_\_

E-mail \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_

会費の郵便振替口座は 00130-3-369499 です。

編集後記: 新型コロナウイルス感染症が、5月8日からインフルエンザや麻疹と同じ5類指定となりました。※大和田谷津田が埋められ台地が開発されようとしています。谷津田を守るため住民説明会にぜひ参加してください。開発の問題点をチラシに書きました。参考にいただき、意見書を書いて市に送ってください。どうかよろしくお願ひいたします。 mud-skipper♀





☆第 214 回 小山町 YPP「苗代作り 2 回目」 4 月 1 日(土) 報告：赤シャツ親

先月号にてお伝えした通り、稲の生長の都合、4 月期の小山町 YPP の活動「苗代作り 2 回目」は、谷津田日より発行前の 4 月 1 日に実施されました。その後、天候は比較的安定し、育苗シートの活用など、管理の甲斐あって、大椎小学校田んぼの苗代は今や防鳥網からはみ出んばかりの勢いに成長しております。なお、大椎小学校の田植えは 5 月上旬、あすみ小学校の田植えは 6 月上旬に実施予定です。

【谷津田・季節のたより】 2023 年 4 月

＜下大和田町＞

田んぼでは、ニホンアカガエルが陸上生活を始めました。森では、ガビチョウがうるさいくらいに囀っています。キビタキのさえずりも聞かれるようになりました。タチツボスミレやキンランなどもきれいな花を咲かせています。3 月 25 日に種を撒いた山形はえぬき、水稻農林 1 号、赤米、黒米、緑米の稲も順調に育ち、5 月 6 日の田植えを待っているようです。今年は例年より苗の生長が早いようです。

＜小 山 町＞ 報告：たんぼぼ

4/1 シオヤトンボ、アゲハチョウ、今期初

4/9 猛禽、カラスに追われる。

4/21 リスが足元を通過、ここのところリス、イタチの活動がとても活発な感じ。

4/27 とても大きなアオダイショウと遭遇。

【イベントのお知らせ】主 催：NPO 法人 ちば環境情報センター

連絡先：小西 TEL. 090-7941-7655 , E-mail : yatsudasukisuki@gmail.com

＜下大和田谷津田＞

・森と水辺の手入れ

日 時：2023 年 5 月 21 日（日） 9 時 45 分～12 時 雨天中止

内 容：田うえの補植や畦の補修作業などをします

持ち物：長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物、午後まで活動する方は弁当、敷物

参加費：無料

・第 291 回 下大和田 YPP「田の草取り①」

日 時：2023 年 6 月 3 日（土） 9 時 45 分～12 時 雨天決行

内 容：田んぼや畦に生えている雑草を取り除きます。

持ち物：動きやすい服装、長靴、お弁当、飲み物、敷物

参加費：300 円（小学生以上）、ちば環境情報センター会員は無料

・第 281 回 下大和田谷津田観察会とゴミ拾い

日 時：2023 年 6 月 4 日（日） 9 時 45 分～12 時 雨天決行

内 容：緑深まる谷津田。盛んに飛び回るチョウやトンボなどを観察しながら谷津を巡ります。

持ち物：筆記用具、飲み物、長袖長ズボンの服装、長靴（通常の）、帽子、あれば双眼鏡、ゴミ袋

参加費：100 円

・第 292 回 下大和田 YPP「田の草取り②」

日 時：2023 年 6 月 24 日（土） 9 時 45 分～12 時 雨天決行

内 容：本格的な 2 回目の草取り。7 月になると稲の根が張り、田んぼに入れなくなります。

持ち物：動きやすい服装、長靴、お弁当、飲み物、敷物

参加費：300 円（小学生以上）、ちば環境情報センター会員は無料

＜小山町谷津田＞

▼第 215 回 小山町 YPP「コシヒカリの田植え」

今期最初の田植えを行います。

日 時：2023 年 5 月 13 日（土） 10 時 00 分～ ☆小雨実施。

場 所：りんどう広場

※ 一般の方の参加も若干名受付ます。

参加ご希望の方は、 tomizo\_i@nifty.com 赤シャツ親父 までご連絡ください。

